

D 87 ねたきり老人のねまき試着研究(その2)——着用実態と改良——  
和洋女子短大 口我妻美奈子 立正大大学院修士課程 新田山つね  
立正大文 三友雅夫

目的 本研究は、障害を持つ“ねたきり”老人にとって、どのような“ねまき”が、心地よく、快適なのか、また、病気の種類、障害の種類や部位などの違いに対して、どのような“ねまき”が、介護、リハビリテーション・ケアしやすいのか解明する。

方法 300名の“ねたきり”老人の“ねまき”の着用実態の観察による、その実情と向題点の解明。試着用“ねまき”をカンチレバー法、およびスライド法により剛軟性実験、フラジール形試験機による通気性測定。同試着用“ねまき”につき試着実験。試着者本人、ケア・ワーカー(家族)、理学療法士から向題点洗い出しのヒヤリング。

結果 300名の観察分析は新田山が担当した。和式長着・二部式、男女兼用二部式につき、20人に試着実験。素材につき、ガーゼ表・裏地重ね、ゆかた地、ネル、兼用のゆかた地表、兼用のゆかた地・居敷当などの実験・測定の上で試着実験。剛軟性、通気性の測定結果は、大会発表時にデータを示し報告する。試着実験の過程で12人は他界。それぞれ3ヵ月～6ヵ月にわたってヒヤリング実施。臥床理由は、循環器系疾患(脳出血3人、脳梗塞2人)、骨折2人、難病(リウマチ)1人。病態、障害の種類・程度によって、試着ねまきに対する向題点の指摘、改良の意見は多様であった。その詳細については、被験者別にデータを示し、大会発表時に報告する。